

失望なのか安堵なのか

文／安達良春（はちのへ演劇祭実行委員）

2020年は「新型コロナウイルス」という言葉が始まり、終わろうとしている。ソーシャルディスタンス、三密、クラスター、オーバーシユート。聞いたことのない言葉や文字が飛び交い、様々な情報・意見に一喜一憂しているうちに365日が、いや今年はうるうる年で本来ならオリンピックの年、366日が経ってしまう。普段にも増して時間が過ぎていくのを速く感じる。コロナの時代における日々の生活の変化や、情報・意見の渦に巻き込まれてついていけなくなってきたのだろうか。それでも「考え続け、動き続けていかないと駄目だ」と前に向かって進まなければいけないと自問自答しながら生きてきた年だった。まあ、それと同じくらいに「足を止めて落ち着いて考える事も大切だ」と痛感している訳だが…。

9月から第九回はちのへ演劇祭に向けて準備を進めてきた。当初は市内に感染者がいない状態だったが、進めていくうちに感染者が日々増えてくる。私を含めた実行委員全員が悩んだ。それでも「やれる方法」は無いのかとコロナ禍での公演の在り方について葛藤と模索を続けた。政府からの「イベント等における感染拡大防止ガイドライン」も状況と共に変わり続けたが、これに基づき観客やスタッフの検温、客席は50%以下、会場内の消毒、出演者・スタッフの公演前後2週間の健康チェックや行動履歴などの徹底。これらは全て物理的なものでアマチュアの集合体

である演劇祭でも実施可能ではある。更に、上演作品は一人芝居を中心に1公演30分とし、事前の接触を極力避ける。来場していただく方にもマスクの着用・事前の検温などをお願いする。これならやれるか？ サブタイトルが「今年はずよべつ」と決まった。



8月にスペースベンで上演された「短々面」より

だがしかし。アマチュアであるがために生活の基盤である職場の立場や規則を当然のこと考慮しなければならぬ。そして、観客はもちろん、八戸で生活している方にも不安を与えず公演しなければならぬ。心理的な部分で壁に突き当たる。12月に入ると市内でもクラスターが発生し、毎日複数人の感染の情報が流れてくる。この原稿を書いている時点でも刻々と状況は変わり続けていて、皆さんがこれを読む時に

は、既に今と大きく状況が変わっているかもしれない。そして12月中旬、実行委員会開催の緊急招集メールが送られてきた。「もしかしたら…」いやな予感がよぎった。会議では継続の可否について、実行委員の個々の意見が述べられた。

「今のまま演劇祭を開催して、参加者以外の理解は得られるのか」
「舞台での公演が難しいのであれば、WEB配信での演劇祭はどうだろう」
「いや、私たちはアマチュアだからこそ生にこだわるべきだ」
「今はまだ中止にせず、ぎりぎりまで様子を見てはどうだろうか」

「中止の可能性がある以上、傷が浅いうちに判断すべきなのではないか」
等々、喧々諤々の議論となってゆく。そして予感どおり結果は中止の判断。残念ではあるが、現状を考えれば致し方ない決定なのかもしれない。失望なのか安堵なのか、一気に力が抜けた。全て「コロナ」の所為である。と責任を「コロナ」に被せた2020年末。

2021年は「コロナ」の言葉を聞く回数が減り、芝居を観て感動したり笑ったりする顔が増えてくれることを願いながら、ポジティブに丑年にふさわしくゆつくりと歩んでいきたいと思う。

●筆者近況

体力がなくなりました。身体が硬くなりました。新しい発想が出なくなりました。面白いと感じられることが減りました。そして、それを何とかしようとする気力が減ってきました。諸先輩方を差し置いて白状します。「明日からでも」隠居と呼ばれたい…」

演劇空間

スペースベン

～演劇好きのための、演劇の場～

※特別番組以外 金曜日は19時30分～、料金は一般前売500円
大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増し)
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい
八戸市柏崎1-11-8 TEL:080-6025-0990 FAX:050-3588-8350
E-MAIL:owner@spaceben.com URL:https://spaceben.com/



FANS

FRIDAY AMUSEMENT NEGATIVE SHOP
FANS予定▶第1404～1408回

新型コロナウイルス感染拡大が見られるため
当面の間上演は見合わせます

WHAT'S
"FANS"?

多目的スペース「SpaceBEN」にて、毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。

一般前売500円 / 大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増)